

教科書は徹底的に予習しよう

予習は、辞書と参考書、ノートのフル活用を

開倫塾

林 明夫

Q 新学年を迎える4月に最もすべきこととは何ですか。

A (林明夫。以下省略)学校の教科書の予習、それも徹底的な予習だと私は考えます。

新学年の教科書を手にした瞬間から、自分の好きな科目、得意な科目だけでよいですから、誰に遠慮することなくどんどんと教科書を勉強してしまいましょう。

できれば全科目、全科目が無理なら1科目でも多く教科書を予習しましょう。ゴールデン・ウィークの終わる日まで、1ページでも多く予習してしまいましょう。

Q なぜ予習をしたほうがよいのですか。

A どのような内容をこれから一年間勉強するのかを予め知ってから学校の授業に臨むのと、その日の授業を聞いて初めて勉強する内容を知るのとでは、勉強した成果(結果)が大きく異なるからです。

学校の教科書を徹底的に予習し、自分のよくわからないところを予めはっきりさせてから学校の授業に臨むことが大切であると私は考えます。

高校を卒業後、5人に4人の方は大学や短期大学、専門学校、専修学校などに進学なさいます。そのような高校以上の学校を高等教育機関と言いますが、そこでの授業は予習が前提となっています。自分の力で予習を十分に行って、自分のわからないところをはっきりさせ、問題意識をもって授業に臨む。これが、大学などの高等教育機関での授業に臨む大切な態度です。

開倫塾の塾生の皆様の大半は、高校卒業後に大学等の高等教育機関に進学なさいますので、小学生、中学生、高校生のうちに、大学に行っても困らないよう予習の習慣を身に付けてもらいたいと私は希望します。

社会に出て仕事や社会的な活動をするときも、基本的な本や文章を勉強して、自分の力で新しいことを理解し、身に付けることが求められる場合が山ほどあります。これは、よく考えれば学校の教科書の予習と同じです。自分で勉強して、よくわかるところとよくわからないところをまずははっきりさせる。よくわからないところは、よくわかる人に教えて頂く。よくわかる人が見つかなければ、さらに自分の力で調べたり考え続ける。このような態度が大切です。

学校にいる間に、予習の仕方を身に付けて、大学などの高等教育機関に進学したときや社会に出てから役に立てて下さいね。

予習の仕方をはじめ学校での勉強は、大学に行っても世の中に出てもすべて役に立ちますよ。

Q 予習は具体的にどのようにしたらよいのですか。

A 学校の教科書を最初のページから丁寧にできるだけゆっくりと読んでみましょう。遠慮しないで、できれば全科目を大きな声を出してゆっくり、何回も音読してみましょう。私が一番お勧めする予習は、学校の教科書の音読練習です。

- ・音読していて、よく読めない語句や意味のわからない語句に出会ったらどうするか。国語辞典や漢和辞典、古語辞典、英和辞典や各科目の学年別の参考書などを用意して、語句、ことばの読み方や意味を調べてみましょうね。

- ・調べた結果は、科目別にノートを用意してメモ(記録)しておくことも大切です。せっかく調べても、ノートにメモしておかないと忘れてしまいますからね。

- ・ただし、その場で覚えたり、何回も同じことばを調べるほうがよいと考える方はそうして下さいね。

*勉強には、いろいろなやり方があります。予習も自分の仕方を工夫してやって下さいね。

Q 朗読(ろうどく)のCDがある英語は、CDやEDを使ったほうがよいのですか。

A その通りです。単語や語句の発音は、発音記号をよく理解してノートすることも大切ですが、学校の教科書に準拠したCDやEDを利用して、ゆっくり聞き取りや発音の練習をすることをお勧めします。

1日に1回、たとえ10分でもよいですから、EDなどZ CG調べ リサ0科書のくPリ、夕練方でし意し。